# 進路指導室へようこそ２

前橋女子高校進路指導部

令和６年度 MJ 進路通信　第２６号

令和６年９月１７日（火）発行

**■第１学年進路講演会概要**

〇進路希望の実現にはスタートの時期が重要

・入試を**「本格的に」**考えて取り組むということ

例　何となく宿題をやる、何となく進路希望を書く

→「逆算してスケジュールを立てて実行する」ということが「本格的に」取り組む、ということ

・高校生活の７割は１年生で決まる

→入試のために、１年生のうちから**「基礎学力」**と**「学習習慣」**を確立することが大切（これができないと２・３年になってもうまくいかない）

〇共通テスト高得点者の特徴

①**「見通し」**をもった学習

②強い**「志望理由」**（自分のことばで言える）

→これらは３年生になってから実行に移すのは大変

〇高１の２学期の大切さ

・３年間で最も成績変動が大きいのが

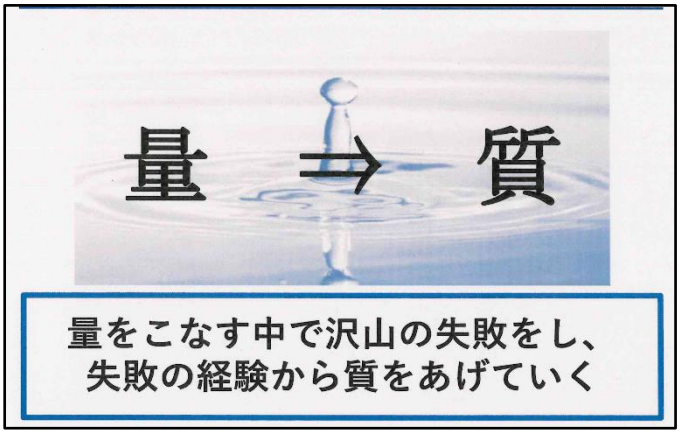
**「高１の７月～１１月」**

・中学の貯金が尽き、高校での学習の成果が直に出る

・高３で好成績を上げる生徒の特徴

→１年生の７～１１月で成績を上げる生徒が多い

※今やっていることが３年生の結果に直結している




〇この時期に成績を上げるためには・・・

・やっぱりまずは**学習時間の確保**

→１日あたりたった１０分、２０分の差が積み重なって大きな差となる

・受かった生徒とダメだった生徒の差

＝「自分で計画を立てられたか」

・量の確保に加え、「もう１コ（＋α）やるなら何をやるか」を考えてできる生徒は伸びる

〇７月進研模試から見た前女１年生の傾向

・現時点では学習時間はそれなりに確保、だが、ここからどれだけ学習時間の上乗せができるか

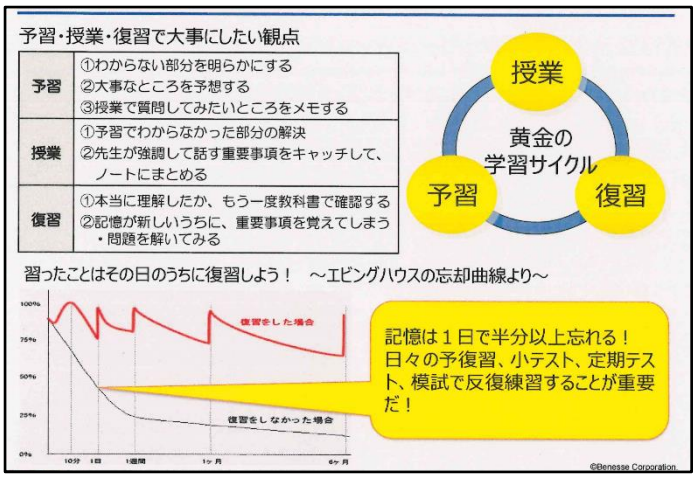
・全国平均との上回り度が小さい分野（≒伸びしろ）

例　国語の文学的文章、数学の２次関数、英語の長文（難しめの長文）など

・数学の小問集合を確実に得点できたか？

→ここで取りこぼしがあると今後の数学で伸び悩む

〇ぜひ実践していきたい学習サイクル




・**「予習→授業→復習」のサイクル**

大事と分かっているがだんだんできなくなってくる（「凡事徹底」の重要性）

・なぜ授業中心の勉強をすべきなのか？

→１日の学習の大半を占めるのが「学校の授業」そこを活かすかどうかで学力は変わる

〇高１で身につけたい力＝**「基礎学力」と「学習習慣」**

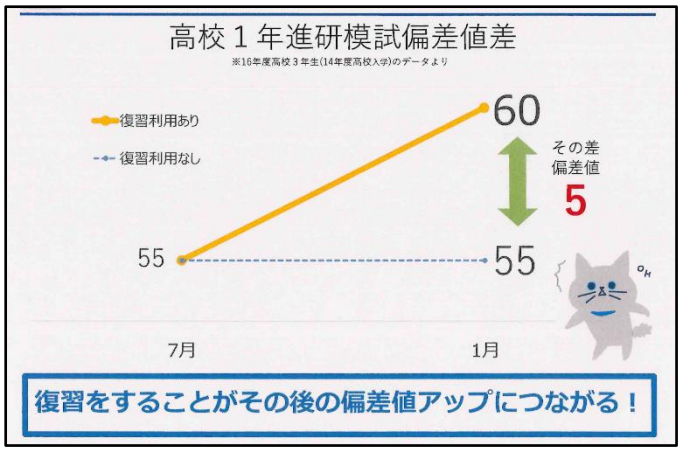
・土台となる低学年時の基礎基本が定着していれば入試への応用力が身につきやすい

〇１１月の模試に向けて目標得点を明確にしよう

・偏差値を５上げられる人

＝**「模試の振り返り」**ができている人

・まずは苦手科目から取り組む




〇模試の成績表をどう活用するか

・出来た**「原因」**、出来なかった**「原因」**は何か

例「英語が出来なかった」

これで終わると、ただ勉強時間を増やすだけしか対策ができない

例　長文が出来なかった→何故出来なかったのか？

→単語力、読解スピード、時間配分 etc

→**原因によって対策が変わる**

・成績表を「偏差値を確認するため」だけに使わない

実際の得点と、本来とるべき得点との差（ギャップ）を見て、どう学習するかに繋げる

〇受験生で大事な生活リズム

・学習**「開始」**時間を固定しよう

「今日はやらなくてもいいや」という日ができないようにする

〇偏差値４８の壁、５８の壁、６８の壁

・４８の壁を超えるには

与えられたこと宿題や復習をきちんと実行する

・５８の壁を超えるには

間違えたことをそのままにせず、間違えた理由を理解する

・６８の壁を超えるには

何故そうなるのかを自分でどんどん調べ、深く掘り下げていく

・難関大に合格する生徒の学習法

仮説を立てて学習している／教わったことをそのまま鵜呑みにせずまず考えて調べる癖をつけている（**探求型の学習**をしている）

例　長文中に不明な語句があったとき

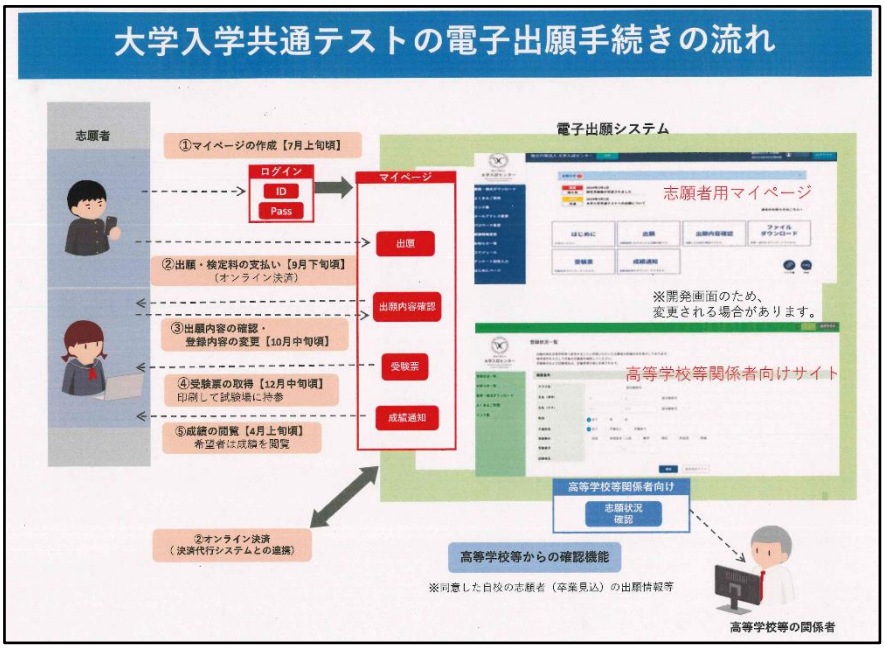
→前後の文脈から推測した後、辞書などで確認

## ■「大学入試を知る」（第６回：１２月入試って？）

推薦や総合型以外の大学入試というと、年明けに本格的に始まるイメージですが、１２月にも入試があるということを知っていますか？年内入試と言われるこの入試は、私立大学の多くが導入しており方式も年々多様化しています。「１２月にもう？」と感じる人もいるかもしれませんが、まだ志望校が確定しない受験生もいるせいか一般入試より低倍率の学部もあります（県内会場で受けられるものも）。他大学との併願が可能なものや、成績により授業料免除や奨学金支給があるものもありますし、普段から緊張しがちな人は共通テスト前の「本番慣れ」のために使うこともできます（模試代わりに使ってください、と堂々と言ってくる私大もあります）。

最近では、推薦入試という名目で１２月入試を行う大学も現れました。例えば東洋大は今年度から「基礎学力を問う（小論文や面接を課さない）」「併願可能な」「評定平均等の条件を課さない」推薦入試を導入し、話題となりました。

この時期の入試で合格を勝ち取れれば今後はより志望度の高い大学だけ受験していけばよいので、戦略も立てやすくなります（共通テストのプレッシャーが軽減されるメリットも大）。私大の受験校を探す際、年内入試を実施している大学を候補に挙げておくのも戦略の１つです。もちろんこのような入試に向き不向きがあることも事実。日頃の勉強のペースを大きく乱すような受験ではデメリットが生じる場合も。出願にあたっては、担任の先生とよく相談して、しっかり作戦を立てておきましょう。

## ■令和８年度入試情報「共通テストが web 出願に」

大学入試センターから公式発表がありました。具体的な出願方法については順次公開されていく予定です。